写真８　亀裂が入った井寺古墳の墳丘（嘉島町撮影）

写真９　被災した井寺古墳石室の南側壁（嘉島町作成）

写真10　崩落した釜尾古墳の墳丘（熊本市撮影）

写真11　釜尾古墳のコンクリートドーム（20180905）

写真12　倒壊した石之室古墳の石棺（20160717）

写真13　小坂大塚古墳の周濠と墳丘（20180304）

井寺古墳　嘉島町にある装飾古墳です。石室が大きく破損し、あまりに危険なため、人が石室に入っての被災状況調査はまだ行われていません。カメラを挿入しての調査により、石室全体が大きくゆがんでいること、石室石材の多くが剥落、落下していることなどが明らかとなっています（写真９）。墳丘にも大きな亀裂が生じています（写真８）。この10月から、文化庁と熊本県の協力を得て、入口をふさいでいる落下した羨道天井石を取り外すにあたっての事前調査、墳丘盛土と石室構築の関係を探るための調査、墳形を明らかにするための調査が実施されます。

釜尾古墳　熊本市にある装飾古墳です。墳丘の整備盛土が崩れ（写真10）、石室では羨道の天井石と側壁に大きな被害が出ています。石室では、落下した天井石をジャッキで支えたうえで進入し、３次元計測等による被災状況調査が実施されました。墳丘では、石室を覆うコンクリートドームの破損状況調査が行われたところです（写真11）。今後、それら調査で得られたデータをもとに、復旧方法の検討が行われる予定です。

塚原古墳群　熊本市にある古墳群で、７基が被災しました。うち、三段塚古墳では墳丘の亀裂は整備盛土内に留まることが、また、りゅうがん塚古墳では墳丘の亀裂の影響が石室には及んでいないことが確認されました。これらについては、今後、盛土の盛り直しが行われる予定です。一方、家形石棺が倒壊した石之室古墳（写真12）については、それが装飾をもつこともあって、現状ではまだ解体・復元方法や復旧後の保存・管理方法などを決定するには至っていません。

３．埋蔵文化財

埋蔵文化財調査の支援のため、昨年度は10名の、今年度は16名の方々が、他県から応援に駆けつけて下さっています。10月現在、熊本県に３名、熊本市に３名、熊本城に５名、益城町に３名、嘉島町に１名、宇城市に１名の支援体制となっています。

昨年度の調査のうち、次の３つを紹介します。まずは、国道57号北側ルート建設事業に伴う発掘調査で、**清正公道**（江戸時代初期に加藤清正によって整備された熊本県大津町域の豊後街道）の調査が行われ、現地説明会には多くの見学者が訪れました。２つは、災害復興公営住宅建設に伴う宇城市**大塚台地遺跡**の発掘調査で、弥生時代終末期の墓域が良好な状態で検出されました。調査後、その保存が決定されたことは特筆されます。３つは、障がい者支援施設復旧事業に伴う御船町**小坂大塚古墳**の発掘調査で、幅９mにもなる周溝の存在が確認され、当古墳は直径約54mの大型円墳であることが明らかとなりました（写真13）。これは古墳時代中期前半の熊本県地域では傑出する規模であり、当古墳が石障系横穴式石室を内部主体とすること、甲冑を保有することと合わせ、今後その存在意義を全国的な視野のもとで検討する必要があります。

熊本県や熊本市、益城町等からお話をうかがったところでは、今年度から来年度にかけて、災害復興に係る調査がピークを迎えるようです。今年度では、松橋中学校体育館建替工事に伴う宇城市**松橋大野貝塚**の発掘調査で現地説明会が開催されました。**水前寺成趣園**では、築山の頂部が地震で陥没したため、その状況を探るための発掘調査が行われ、西南戦争時の官軍砲台跡が確認されました（写真14）。また、災害復興公営住宅建設に伴って、ちょうど今、益城町**大辻遺跡**で発掘調査が行われています（写真15）。業務支援を受けながら、本年９～12月のあいだに、5000㎡にわたる広大な面積の調査を完了させる予定とのことです。この調査地の隣接地でも今後大規模な宅地造成が計画されているようで、これからの事業量の大幅な増加が懸念されます。

なお、復興事業に伴う発掘調査に関しては、調査後の遺物収蔵施設や整理施設の確保に不安があるところもあるようです。報告書刊行までの一連の作業が順調に行えるかどうかに課題を残しているように感じます。そうした方面への支援の必要性も粘り強く訴えていく必要があります。

また、昨年度では御船町、今年度では西原村や南阿蘇村など、地震で大きな被害を受けた自治体で、文化財保護行政専門職員の募集がなされました。今後、そうした新規職員の方々が孤立されないようなケアがとくに必要だと感じています。

おわりに

日本考古学協会・平成28年熊本地震対策特別委員会では、これまでに３度、熊本県を訪れ、被災地の現状をみてきました。また、2017年度および2018年度の総会ではセッションを設け、熊本地震による文化財被害・復旧の様子を広く伝えようとしてきました。協会ホームページには「ブログ　災害と考古学」を開設し、熊本地震のみならず災害と文化財に関する記事をあげるよう努めています。

しかし、セッションへの参加者が１年目の100名程度から２年目の50名程度に半減したことからもわかるように、熊本地震への関心は大きく低下しています。地元熊本においても、それは顕著に感じるところです。

阿蘇石製の石橋など、ここで紹介できなかった文化財も多く被災しています。そうした被災文化財の復旧はまだその途についたばかりです。復興事業に伴う埋蔵文化財の調査は、今そのピークを迎えつつあります。今後も、さまざまな機会を通じてさらに情報を発信していきたいと思います。

写真14　水前寺成趣園の築山の調査（20180923）

写真15　大辻遺跡発掘調査現場（20181007）